
僕の彼女は、私の彼氏は 異世界人。

もやみん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の彼女は、私の彼氏は 異世界人。

【Nコード】

N63070

【作者名】

もやみん

【あらすじ】

人生につまずいている人にもってこいのお仕事です。

契約期間は3年

ただ、決められたエリアで暮らしていただくだけの誰にでも出来る仕事です。

希望があれば、家族とコンタクトをとることも可能です。

しかし、あなた方のコミュニケーションは

我々の実験結果として、記録されることをご承知下さい。

それでは、あなたの

自立のための

資金と心の貯金を

全力でサポート致します。

青春を見過ごした貴方へ

暗闇への序曲

20歳、それは大人と子供の境界線。

この話は、大人になろうとした子供と大人の話である。

僕は・・・

えっと・・・私は・・・

この夏、人生初の家出をしました。

僕は高校3年の受験生、はなじまよしあき花島美明

「この貧乏な暮らしから抜け出すには、人生の勝者にならなくちゃいけないの。だからそのためには、良い学校に入ってたくさん勉強するのよ。」

そう母に言われるまま勉強一筋18年。

楽しい事など何一つ知らないまま、僕は大人になっていくのだろ
うか。

そんな僕は、未来の自分が見えずに

つまずいた。

「はなちゃん！」

「ったく、その呼び名はやめろっていつも言ってるだろ。」

こいつは、僕の幼馴染の高坂智志^{こうさかちし}。

校則破りの常習犯、女子にモテモテのプレイボーイ。

情報屋であることは、あまり知られていない

ばかなフリをしている、人間的に賢い人間。

「あつ！先生が進路希望のプリント提出してないの、はなちゃんだ
けって言ってたぜ。」

俺と違って花島は頭良いんだから、迷うことないのに。」

今思えばこの時の僕が、人生の選択にいくら悩んだとしても結局、
人生は変わっていた。

結局、平凡な人生なんてありはしないのだ。

毎年恒例の進路希望調査か。

「自分の人生だから、今度は自分で決めたいんだ。」

そう真剣に僕が言っていると、智志は首をかしげ、自分の群れへと戻っ
ていった。

智志のように何も考えず、自由に生きたい。
そう思う気持ちが日に日に膨らんだ。

そして僕は進路希望用紙をゴミ箱に捨てた。

「やったー！」

私が、地元の教育大学に合格したのは4年前の春。

私の名前は、たにざきるみか谷崎瑠深果

私の家族は教師の家系で、お父さんもお母さんもお姉ちゃんも皆、
教師。

小さい時から小学校の先生になりたい一心で、一生懸命勉強してきた。

でも、現在はニート。

自分の運命を、生き方を、人生を

恨んだ。

なんて私は、報われない女なのだろう

親が姉が皆が憎い。

そうして私は、家に引きこもり、物にあたる様になった。

そんな生活をしていたある日、テーブルの上に置いてある新聞に目が留まった。

「あなたの心を治します、荒葉精神科。」

医者でも誰でもいい、私の話を聞いてほしい。

私は気がつく、地図を片手に病院へ駆け出していた。

『早く、速く、誰でも良い。私を助けて・・・』

久しぶりに浴びた太陽は、とても眩しかった。

皆が、必死に勉強しているテスト週間中、僕は考えた。

良い大学に進学したら、何かが変わるのか？

自分は、将来何になるんだろう。

「美明！学校の先生から電話があって、お母さんビックリしたよ。あなたまだ、進路希望用紙、提出してないの。」

「うん、ちょっと迷ってて・・・」

『言うんだ俺！今しかない！』

このチャンス逃したら話など聞いてもらえない

「お母さん！大学なんか良いと思うんだけど！奨学金も貰えるし・
」

「ごめん。僕、大学へは行かないよ働くんだ。」

「ばか言わないで！お母さんは、あなたの為をおもって・・」

「僕は、お母さんを楽にしてあげたいんだ。僕一人じゃない、弟だつて居るんだから。」

「ふつ 我ながら心にもないことを・・母さんは、弟よりも僕を選ぶはず。」

親の困った顔が目につく

「ざまあみろ」

僕は心の中でつぶやいた。

「分かったわ、もうあなたには何も求めたりしない。あなたは、負け組み決定よ。これからは、弟の和雅が私の支えになるの。だから邪魔しないでねお願いよ。」

そう言つと母さんは弟を連れて、どこかへ出かけて行つた。

無意識に僕の膝が、汚い畳の床についた。

「え・・・」

僕の頭が一瞬、真っ白になった

何の為に生きてたんだろう

結局、今までの僕は何だったんだろう

僕は、母さんの為に頑張ってきたのに

[illegible]

一瞬ですべてが崩れた

涙が止まらなかった

本当は、本当に

僕は、僕を見ていてくれる、母さんが好きだったんだ。

「俺って、かつこ悪い男だなあ」

その夜は泣きながら、そのまま居間で寝てしまった。

次の日の朝、僕が起きると夜遅くに帰ってきた母さんと弟は、まだ寝ていた。

自分の部屋に入ろうとすると、そこには弟の勉強机があり、その上に僕の退学届けが置いてあった。

『兄のメンツも丸つぶれだ・・・そっか、もう潰れてたか。』

部屋の横の玄関を見ると、僕の所持品はすべてゴミ袋に放り込まれていた。

『ああ、本当に僕の居場所はどこにもないんだ。じゃあ、こんな家に居る必要もないんだ。』

放心状態のまま、居間に戻ると僕の名前が書かれた、分厚い本が目についた

アルバムなんてあったんだ

1枚位貰ったところでバチはあたるまい

『こんなんでも、最後に家族の写真を貰っていいっつ。』

アルバムを手に取り、開いてみると

僕の写真が一枚も無かった。

残酷だな

その時、僕はちっとも驚かなかった

多分、これ以上の裏切りを受ける事がない限り

僕は落胆しないんだ

仕方がないので、1万円札数枚と両親と弟の写真を握り締め
着の身着のまま、僕は家を出た。

さようなら、花島美明。

「はあ、はあ・・・」

私は隣町にある精神病院を目指して走った。

住宅街の窓ガラスに顔が映る

一体、自分は何をしてるんだろう・・・

こんな思いつきで、全てが解決するなら

ニートじゃなかったよね。

教師じゃなくていい
そうしたら

今からでも、自立できるのかな？

そう考えていた矢先

ふと見上げた電信柱に社員募集のはり紙があった。

これがすべての始まりだった。

後々出会う

花島美明とも

迷うことなんかなかった

私の運命は知らない内に、決められたレールの上を走っていたのだ。

暗闇への序曲（後書き）

読んで下さってありがとうございます。

多分この章は、本スジに入っていないので

退屈だったと思います。

なるべく頑張つて更新する予定なので

よろしくお願いします。

（ θ θ ） 㐂もやみん 㐂

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6307o/>

僕の彼女は、私の彼氏は 異世界人。

2010年11月1日02時29分発行